

「ミャンマー産業発展ビジョン（MIDV）」について

- 2014年10月に行われた「日ミャンマー共同イニシアティブ（MJJI）」の第5回会合にて、日本側より、ミャンマーの産業発展の将来像とそれを実現するために優先的に取り組むべき政策をまとめた「ミャンマー産業発展ビジョン（MIDV）」を策定することを提案し、ミャンマー側から賛意が示された。
- その後、経済産業省が中心となって関係省庁とも協力し、産業界の意見も踏まえて取りまとめを行い、今般のMJJI第6回会合及びMIDVに関するセミナーで、ミャンマー側に対する提言概要の説明と意見交換を行った。今後は、今回の意見交換も踏まえて、7月上旬を目処に完成させる予定。
- MIDVの主な内容、意義は以下のとおり。
 - ・ ミャンマーが、都市と地方のバランスある発展を重視する中で、現在のミャンマーが抱える構造的課題を克服し、国土の均衡ある発展と持続的な経済成長を実現するための具体的な戦略と政策を明らかにするもの。
 - ・ 具体的には、低廉・良質な労働力等の比較優位や内外実需を踏まえ、都市における外資主導の労働集約型産業の発展と、地方における農林水産業、高付加価値な織物等の地場産業の発展の好循環を起こす「都市・地方シナジー開発戦略」を提案している。
 - ・ さらに、今後5年間で優先的に取り組むべき政策として、（1）インフラと連結性の向上をテコにした産業振興、（2）予見可能で効率的なビジネス環境の制度基盤整備、（3）「人間中心の開発」を支える人材の育成、（4）その他の戦略的・横断的政策、（5）農林水産業の潜在力の具現化を掲げている。
 - ・ ミャンマー政府がビジョンの基本的考え方と施策を効果的に次期5か年計画に盛り込むことが期待される。また、日緬両国がミャンマー経済の現状と将来の発展に向けた戦略についての共通認識を醸成し、効果的かつ適切な協力の実現に貢献することが期待される。